

事業再評価

社会資本整備総合交付金事業 (都市公園事業) 千葉県立八千代広域公園

令和2年1月15日

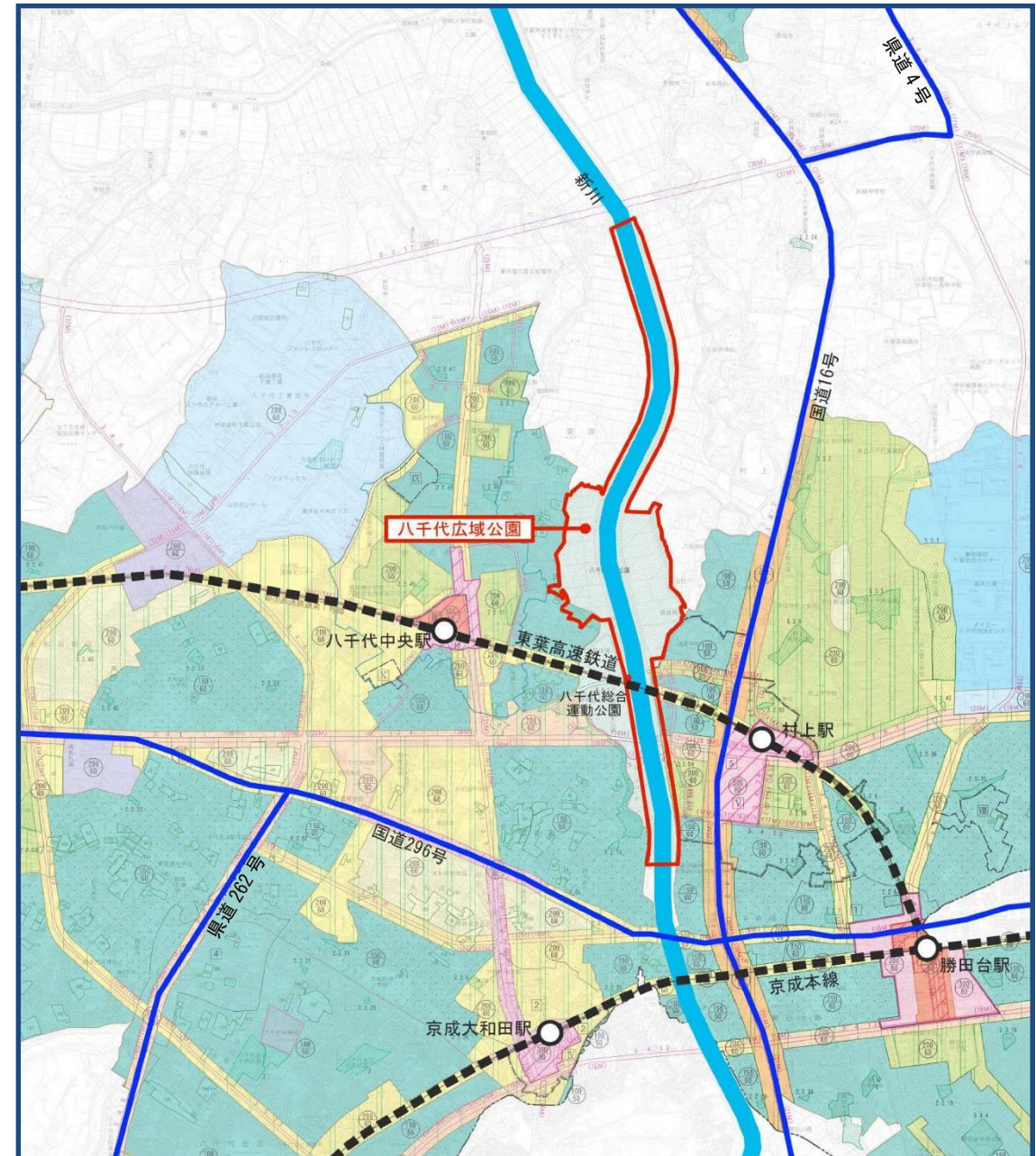
千葉県 県土整備部 都市整備局 公園緑地課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会経済情勢
4. 事業投資効果
5. コスト縮減
6. 対応方針(案)

1. 事業の概要

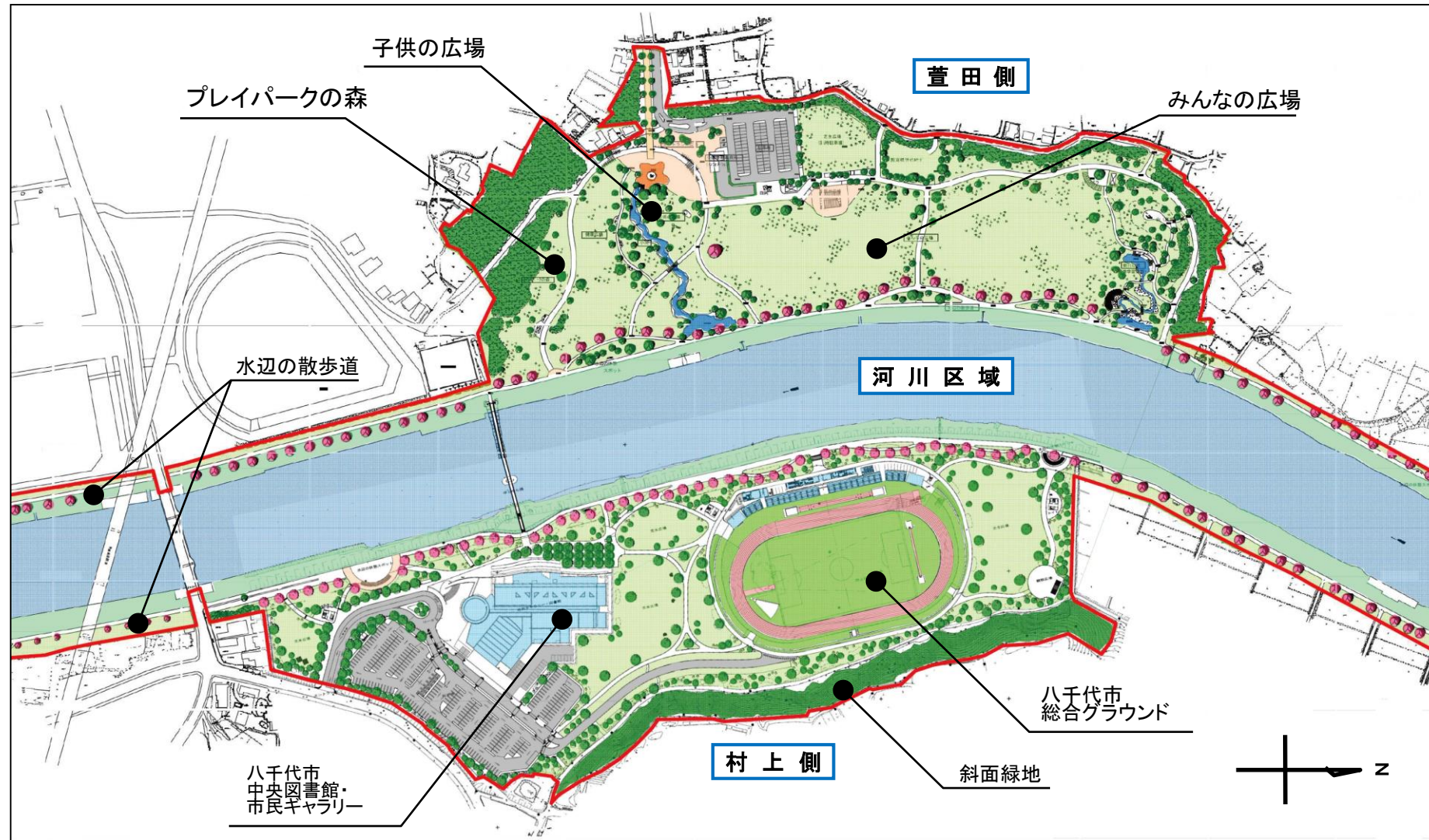
■ 八千代広域公園の位置



千葉県北西部地域は急激な都市化が進み、郷土景観・自然環境の保全、多様なレクリエーションニーズへの対応等の都市づくりが求められており、これらに対応した公園整備を行う。

1. 事業の概要

■ 八千代広域公園の事業概要



位置	八千代市村上及び萱田地先
計画面積	53.4ヘクタール
都市計画決定	平成7年3月22日
事業施行期間	平成7年度～令和5年度
事業費	約135億円

テーマ	水辺とスポーツ・情報文化とのふれあい
主な施設内容	【村上側(公園東側)】 八千代市総合グラウンド、中央図書館 【萱田側(公園西側)】(整備予定) プレイパークの森、みんなの広場

1. 事業の概要

■事業計画の変更(概要)

(1) 事業施行期間

	変更前	現事業計画	延伸期間
事業施行期間	平成7年度 ～平成30年度	平成7年度 ～令和5年度	5年間

【延伸理由】

- ・八千代市において新たに図書館・グラウンドを整備することとなり、期間を要したため。
- ・地権者との用地交渉が難航したため。

(2) 資金計画

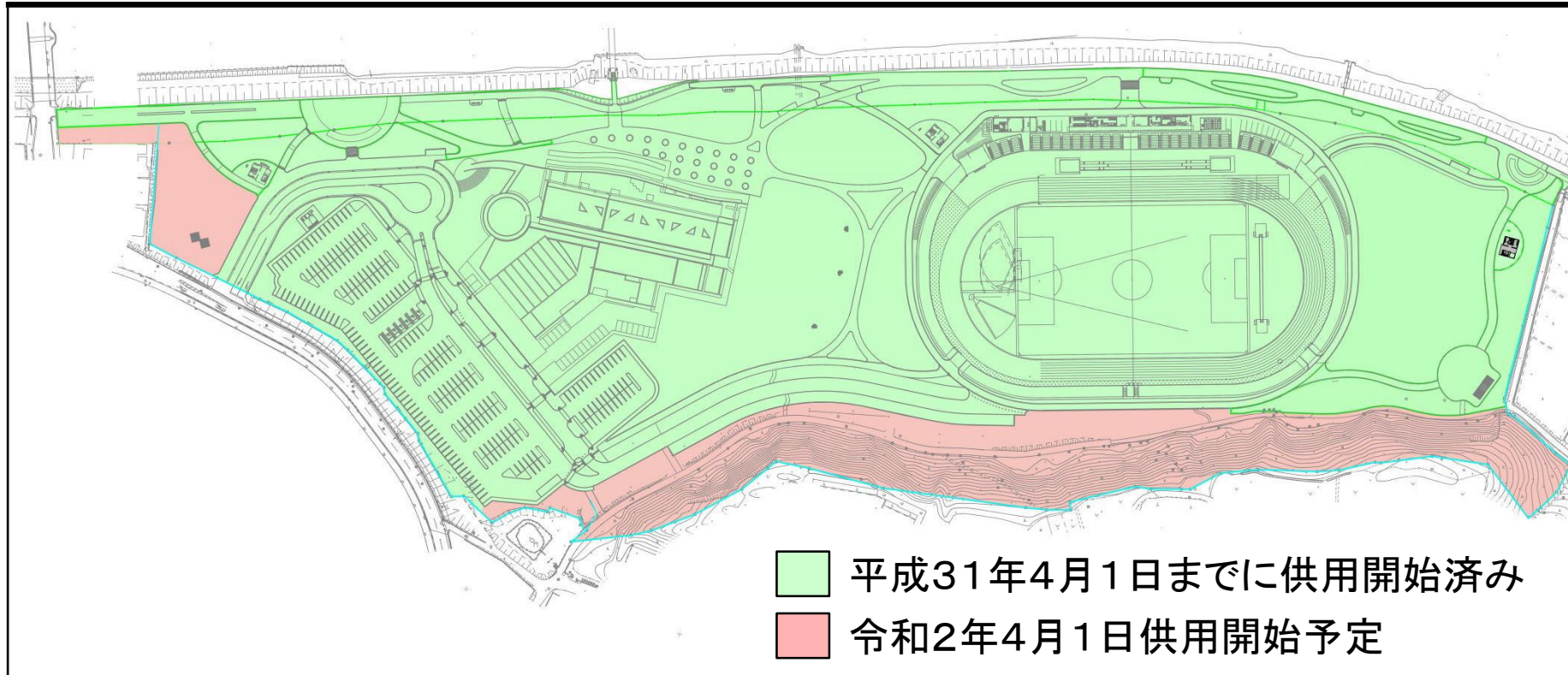
	変更前	現事業計画	増減
総事業費	約135億円	約135億円	増減無し

事業施行期間を延伸した以外は、資金計画など変更無し。

2. 事業の進捗状況

■ 事業費の執行率(1)

供用開始状況(村上側)



	計画	進捗状況	進捗率
事業費	135億円	111億円	82%
うち用地費	103億円	97億円	94%
うち工事費	32億円	14億円	44%

(赤字は令和元年度末見込み)

2. 事業の進捗状況

■事業費の執行率(2)

①用地買収状況(萱田側)

	計画	進捗	進捗率
用地費	103億円	97億円	94%
用地取得面積	18.6ha	17.2ha	92%

(赤字は令和元年度末見込み)

②残事業について

- ・用地費:約6億円(約1.4ヘクタール)
- ・工事費:約18億円(造成工事、園路広場整備等)

2. 事業の進捗状況

■ 村上側の整備状況（概成）

① 総合グラウンド整備状況



（平成26年9月供用開始）

③ 芝生広場整備状況



（平成31年4月供用開始）



② 図書館・市民ギャラリー整備状況



（平成27年7月供用開始）

3. 社会経済情勢

- 1 少子高齢化や社会の成熟化に伴い県民の価値観は多様化しており、ニーズの変化を踏まえた整備が求められている。
- 2 近年、災害が頻発しており、防災・減災の観点からもオープンスペースの重要性がますます高まっている。
- 3 国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録された「印旛沼流域かわまちづくり」計画において水辺拠点とする構想があり、周辺では道の駅やちよの拡張など市の施設の整備が進んでいる。
- 4 平成29年6月の都市公園法の改正により、民間活力による新たな都市公園の整備手法が創設された。

4. 事業投資効果

(1) 費用便益比(B/C)の比較

分析実施年度	前回再々評価(平成26年)	今回再々評価(令和元年)
使用マニュアル	改訂第3版 大規模公園費用対効果 分析手法マニュアル(H25.10) (国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)	改訂第4版 大規模公園費用対効果 分析手法マニュアル(H30.8) (国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)
評価手法	<ul style="list-style-type: none"> ・「公園までの旅行費用」に着目して、公園整備の価値を貨幣価値化(直接利用価値) ※「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」ことを前提 ・公園が存在することにより得られる価値(環境面・防災面)についての「満足度」を貨幣価値化(間接利用価値) 	同左
便益計上期間	部分供用開始～部分供用後50年後	部分供用開始～全体供用後50年後
計算式	$\frac{\text{総便益 (直接利用価値+間接利用価値)}}{\text{総費用 (用地費+整備費+維持管理費)}}$	同左
基準年度	平成26年度	令和元年度
供用開始年度	部分供用:平成25年度 全体供用:平成30年度	部分供用:平成25年度 全体供用:令和5年度
総便益(B)	537億円	553億円
総費用(C)	195億円	238億円
費用便益比(B/C)	2.8	2.3

4. 事業投資効果

(2) 残事業の投資効率性

$$\begin{aligned} \text{費用便益比 (B/C)} &= \frac{\text{継続した場合の便益} - \text{中止した場合の便益}}{\text{継続した場合の費用} - \text{中止した場合の費用}} \\ &= \frac{82\text{億円}}{23\text{億円}} \\ &= \boxed{3.5} \end{aligned}$$

5. コスト縮減

■ 施設整備費の削減

○ 現場発生土の再利用

（村上側を整備した際の発生土を萱田側に再利用）

○ 民間活力を導入した施設整備の検討

■ 維持管理費の縮減

○ 指定管理者制度の導入

○ 県民や地元市等の多様な主体と協力・連携した管理運営方法の検討

6. 対応方針(案)

【理由】

- 1 早期の供用開始を求める声に応え図書館及びグラウンドのある村上側を優先して整備完了しており、引き続き県民ニーズを踏まえた整備を進めていく。
 - 2 隣接する市立八千代総合運動公園と連携しながら広域避難場所として更なる防災機能の向上を図る。
 - 3 既に大部分の用地確保が終了しており、周辺施設の整備も進んでいることから、残る事業を推進し、投資効果の更なる発現を図る。
 - 4 民間のノウハウを活用した更なる利便性の向上や賑わいの創出に向け、管理費用の削減も期待できる新たな整備手法として民間活力導入を検討する。
- 以上のことから、公園整備の必要性が高いことに加え、費用便益比(B/C)は2.3と、事業の投資効果も見込める。



本事業を「継続」し、公園整備を推進する。